

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第10号

定植前後のイチゴのハダニ類の防除について

イチゴの育苗床におけるハダニ類の発生状況は、育苗期間中の薬剤散布や、平年に比べて8月下旬以降の降水量が多かったため、全体的には減少傾向で推移しています。しかし、依然としてハダニ類の寄生が多い苗床も散見され、9月2半旬調査においても、苗の寄生株率が30%以上の調査地点が認められています。

昨年のような本ぼでの多発を招かないよう、定植前後の防除を徹底し、本ぼへの持ち込みを減らすよう努めましょう。

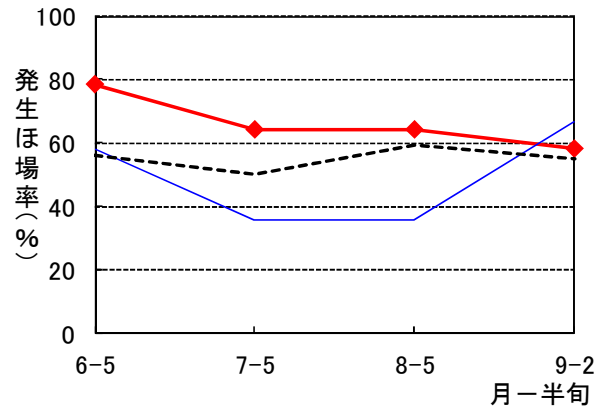
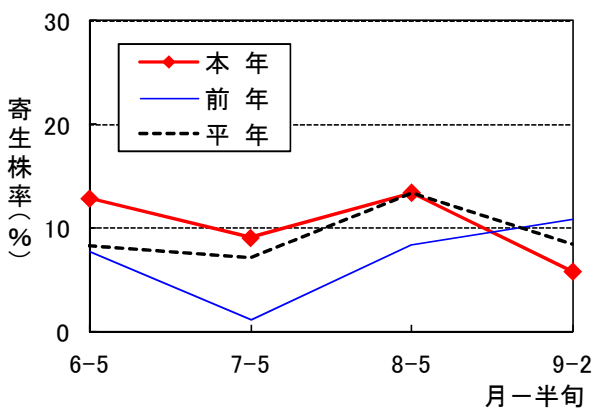
1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：ハダニ類

3 発生状況

9月2半旬調査の結果、寄生株率は5.8%で平年・前年よりも低かったが、発生ほ場率は58.3%で、平年・前年並であった。また、寄生株率30%を超える調査地点も見られた。

- ・ 9月2半旬の寄生株率 5.8% (平年 8.5%、前年 10.8%)
- ・ 9月2半旬の発生ほ場率 58.3% (平年 55.0%、前年 66.7%)



ハダニ類の発生推移

調査地点ごとのハダニ類の発生
状況（9月2半旬）

調査地点	寄生株率 (%)
A	0
B	32
C	16
D	4
E	0
F	4
G	0
H	0
I	4
J	2
K	8
L	0
平均	5.8

4 防除上注意すべき事項

ア 本ほへ持ち込まないよう、苗の段階での防除を徹底する。

特に、ハダニ類の発生が多かった時期の8月下旬に入庫した早期作型の苗には、本虫が多く寄生している可能性が高いため、注意する。

イ 本ほではビニル被覆後に多発しやすい。多発後は防除が困難になるので、被覆までの防除を徹底し、初期密度を低下させる。

ウ 親株用の苗や補植用の余り苗についても防除を怠らない。

エ 抵抗性がつきやすいので、気門封鎖剤も利用し、同一系統薬剤の連用は避ける。

また、ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。マルチ被覆の際の摘葉後に、防除を行うと効果的である。

オ 薬剤感受性が低下しているため、天敵を利用した防除を実施する必要があるが、その場合は、天敵類への影響が長い有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。



ナミハダニの雌成虫および卵